

## 三次市教育委員会会議録

- 1 日 時 令和2年11月6日（金）  
開会 午後 1時30分  
閉会 午後 2時30分
- 2 会 場 みよしまちづくりセンター 1階 会議室
- 3 出席委員 教 育 長 松 村 智 由  
委 員 小 根 森 直 子  
委 員 深 水 顕 真  
委 員 井 岡 直 美  
委 員 藤 井 皇 治 郎
- 4 出席職員 教 育 次 長 甲 斐 和 彦  
教育委員会事務局付課長 河 野 智 樹  
学校教育課長 大 原 哲 也  
教育委員会事務局付課長 赤 木 実  
文化と学びの課長 古 矢 俊 彦  
学校教育係長 中 村 啓 子  
教育総務係長 伊 藤 浩 司  
文化と学びの課主査 迫 あ す か
- 5 議事日程

(1) 協議1 (仮称) 三次市新学校給食調理場整備計画 (案) について (公開)

教育総務係長 ただいまから教育委員会会議を開催する。教育長の報告をお願いします。

松村教育長 教育長報告ということで、まず、10月25日に、寺町廃寺跡の第8次発掘調査現地説明会を行った。当日は天候にも恵まれ、140人の参加者があり、史跡寺町廃寺跡に対して熱い思いを持っておられる市内外の方々に

多く来ていただいた。実際に現地を訪れた方々に話を聞いてみると、非常に素晴らしいものが発掘されており、価値の高さというのが伝わってきたとのことであった。それから11月1日には、従前、視察に行った吉舎拠点施設が落成した。ここには予定通り図書館、そして、放課後児童クラブが入る。愛称は「よっしゃ吉舎」である。第一部は市の主催、午後からの第二部は自治連の主催で120人の方が出席され、テープカットが行われた。11月3日、奥田小由女先生が文化勲章を受章された。これについては、美術館ニュースに、奥田小由女先生文化勲章受章ということで、日本初夫婦で文化勲章受章ということや、小由女先生の略年表が掲載されているので、またご覧いただきたい。なお、美術館も市も懸垂幕や横断幕を準備し、お祝いしたところである。市長が直接小由女先生にお祝い申し上げると聞いている。また、受章セレモニーについては、これから関係機関と連携しながら考えていくので、わかり次第お伝えする。4番目、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行ということで、ツインデミックという言葉が使われるようになった。学校もこういう寒い時期になると、窓をどの程度開ければいいのか、暖房をかけながら窓を開けて空気の入替をすることの難しさもあると思うが、今のところインフルエンザは出ておらず、新型コロナも皆さんの予防で三次市での発生は抑えていただいているという状況で、学校へも注意喚起を繰り返し行っているところである。最後に、本日は三次市学校給食調理場の整備計画に対してご意見をいただく。9月の教育委員会会議でご意見をいただき、その後、保育所、小中学校の保護者アンケートをさせていただいた。あわせて市民の方々からのパブリックコメントも実施し、11月4日で終了した。今、その取りまとめを行っているところである。そういう中で、委員の皆さんから、前回いただいた意見も含め、持ち帰っていただいた意見をいただきたい。教育委員会では、箇所数1箇所で進めていくということを確認させていただき、それを今、一つのたたき台、方向性としているので、今回の案で示しているものに、さらにつけ加えて書いた方がよりわかりやすくなるというような発展的なご意見もあれば、出していただければと思う。限られた時間ではあるが、よろしく願います。

教育総務係長 それでは、以降の進行を教育長にお願いします。

松村教育長 これから議事に移る。本日の議題は、協議1のみとなっている。本案件は、非公開の事案にはあたらないため、公開としたいと思うので、皆さんにお諮りする。異議はないか。

委員一同 ー異議なしー

松村教育長 それでは、協議1に入る。本日は傍聴の申出があり、傍聴の申出者は、三次市教育委員会傍聴規則第2号による傍聴の手続きを行っていること認め、三次市教育委員会会議規則第14条第1項により傍聴を許可する。

ー傍聴人入室ー

松村教育長 傍聴の方は、お渡ししている注意事項をよくお読みいただき、静粛に傍聴していただくようお願いします。それでは、協議1について事務局の説明を求めます。

教育次長 三次市新学校給食調理場整備計画(案)について、前回に引き続き意見を求めるものである。これまでの経過と今後の見通しについて説明する。前回、9月26日の教育委員会会議でこの計画案について説明をさせていただき、またご意見をいただく機会を設けるといったのが今日の会議である。9月30日に市議会全員協議会へ説明を行った。10月14日から10月26日まで小中学校及び保育所の保護者にアンケートを実施し、小中学校の保護者1749件、保育所の保護者530件、合計2279件の回答をいただいている。パブリックコメントを11月4日まで実施し、67件の意見をいただいている。これらの内容については現在精査しており、整理したものを11月中旬頃には公表していきたいと考えている。本日意見を伺い、パブリックコメントや保護者アンケートの意見と併せて、再度、学校給食調理場整備計画策定庁内検討会議で検討を行う。その内容を、教育委員会会議で説明させていただいたのち、市議会で説明、12月議会において、必要な関連予算を要求していくというのが今後のスケジュールである。今日は、整備計画の確定に向けて、意見をいただきたい。

松村教育長 今事務局の方から説明があった、協議1、仮称三次市学校給食調理場整備

計画（案）について、地方教育行政の組織および運営に関する法律第21条第11号の規定によって意見を求めるということである。これは教育委員会の職務権限に関することが第21条であり、この11号が学校給食に関することである。皆様方には、前回、案についての説明を受け、学校給食に関するご意見をいただいたところであるが、今回、持ち帰っていただいた新学校給食調理場整備計画（案）にかかわって、気づきや意見を出していただきたい。前回出されたものを繰り返し述べていただいても結構である。前回いただいた意見としては、藤井委員からは地産地消の推進について、小根森委員からは危機管理について、また、深水委員からは全般的なご意見を含めICTによる発信という意見をいただいた。補強された意見、新たなものを付け加えたものなどでも結構なので、ご意見を聞かせていただきたい。

深水委員 私の思いは前回伝えさせていただいた。非常に練られた計画であると同時に、もう一步、この新しい施設を通して何をしていくのかというところが少し見えづらいので、ぜひその要素をしっかりと加えていただきたい。特に、試食スペース、はっきりいえば給食レストランということである。今日の給食がいつでも食べられるレストランの整備が一番望むべきところだと感じている。6ページに四者の関係図があるが、調理場、生産者、保護者、学校、という四者に、市民という要素を加えて、市民がこの給食調理場にどう関わっていくのかということをごぜひ入れていただきたい。それは、市民が調理するわけにもいかないし、生産するわけでもない。そうすれば、やはり、食べることを通して参加するのが一番わかりやすい。生産者も自分が作ったものがこうなったということその場で感じることができ、保護者もまた、年に何回かある給食試食会だけでなく、常にそれをみることができる。そういう意味では、やはり試食スペースも一つの大きな売りになっていく、主張すべきところだと感じている。確かに、レストランや試食ということが給食施設としてどうなのかということもあると思う。例えば補助金の目的外使用だとか、いろいろな話が出てくるかもしれないが、北海道の伊達市では、給食調理場の2階で給食レストランと一緒に営業している。そういう行政もあるので、前例を踏まえながら、

最終的には特区でもなんでも使い、そういうものを乗り越えて、給食をみんなに食べてもらいたいという情熱を持って、ぜひ行政が進めていただきたい。ICTに関しては前回の意見の中でも伝えたが、この計画書だけではどういう形でやっていくのかがなかなか見えてこない。6ページに書かれているが、7ページの施設の概要の中にそういった要素を加えていけば、もっと実感ができるのではないかという気がする。6ページの食育の充実というところも、今の順番でいけば、整備の方針で、(1)安全安心な学校給食の提供、(2)全小中学校への給食提供、(3)地産地消の推進ときて、4番目なのでもっと前でもいいのではないかという気もするが、安全安心より前にくるのもどうかといろいろなことを考える。どちらにしても、(4)食育の充実については、もう少ししっかりと書き込んでいただきたい。

小根森委員 やはりしっかり考えないといけないことは安全安心が第一で、同じぐらい、子どもたちの喜びや食に対する愛情を育てることだと思う。そこはしっかり踏まえていきたい。何より、この三次においては、中学生が今、デリバリーで冷たい給食を食べている子が多いので、早く中学生に温かい給食を食べさせてやりたい。そして、今、深水委員がおっしゃったことは、大変夢のある、子どもたちが他の地域に対して自慢できる、とても楽しく良いアイデアだと思う。この一つの施設をしっかりと充実させて、働く人の環境もそこでしっかり整え、愛情をもって作っていただいた給食を子どもたちが感謝して食べるということができれば本当にいいと思っている。

藤井委員 前回、私が気になったところで、三次市内での生産された野菜や米を給食の現場に使われるという地産地消の推進について、去年度とられた集計を見させていただいたが、各調理場で非常なばらつきがあった。田幸小学校の給食調理場と、川地小学校の給食調理場がやはり高いが、他のところで低い地域がある。意外にアベレージがとれていないと思う。整備計画案の5ページの3番で、地産地消の推進とあるが、こういったところに、現状の普及率というか、今後1箇所にした場合に、30%なら30%を超えるように推進をするという目標地点をしっかりと明記をした方が、見る側からするとわかりやすい。例えば、今は平均20%でそれを30%に上げようとしているということが伝わると思う。難しいかもしれないが、その辺の表

現も、ただ継続するとか推進するというグレーな言葉ではなくて、具体的な数値を上げた方がよい。それに向かったJAとの取組や、意気込みなど、大きな設備ができるのだから、そういうテイストが入ってもいいと思う。

小根森委員 安全ということで、4ページに食中毒防止と書いてある。この前もよその学校で食中毒が起こったが、食中毒は何をしても起こるものではなく、起こるべくして起こっている。だからきちんと場所を確保できた調理場で、区画をきちんと分けて、そして、菌を除外する、泥を除外するということをしっかりすれば、起こらないのが当たり前なものだと思うので、そのところを新調理場ではしっかりと管理していただきたい。この前見学させていただいた東広島でも、ちょっと違う区画に入る時にはジャケットを着替えたり長靴を履き替えたりされていた。絶対起こさないというしっかりしたものをつくっていただきたいと思う。

井岡委員 私も全く同じで、やっぱり学校給食っていうのは安全安心なもので、子どもたちはまったく疑ってないし、親が安全であることを望まれるのは当然である。そのところで、食物アレルギーについては、特に今言われていて、私たちが育ってきたころには想像しなかったような様々なアレルギーが起きている。やはり食物アレルギーも、ここに書いてあることは当たり前のことだが、もう少し強調されたらどうかと思う。小根森委員と同じ意見で、やっぱり、食中毒は絶対に起こってはいけない、起こさないという強い思いをしっかりと出した方がいいと思う。

小根森委員 前回の会議のときに、川地連合自治会の陳情書をいただいているが、給食というものを、保護者や地域の皆さんが本当に大切に考えていただいていることがつくづく伝わってきて、責任の重さを感じる場所である。特に地域の自慢になるものとして、給食調理場を自分たちで作っていこうという考え方には同意する。それを、できたらオール三次で、三次全体のものとして、深見委員が言われたように、日本全国に自慢できるようなものができたらいいと思う。

深水委員 今の地産地消に関しては、小根森委員が言われたように、オール三次という意識がすごく大切だと思っている。その地域ごとでそれぞれ特産物があるが、あの地域は自分のところから離れているから関係ないではなく、オ

ール三次の中で、どんなものが出来ているのかということ、みんなで一緒に食べながら、三次を感じていく、考えていくという形の地産地消の進めかたもあるのではないだろうか。そういう意味では、この三次全体の中で、いろんなものを三次の中で作って食べていくという考え方をぜひ押し進めていただきたい。

小根森委員 質問である。種鶏場跡地を見せてもらい、高台にあり、広さも十分に素晴らしい場所だと思ったが、アクセスが狭い道であった。その辺の改良はどのように考えておられるのか。

教育次長 調理場へのアクセスについて、詳しいことは今からで、まだ設計をしている段階ではないが、下の国道183号線から種鶏場跡地の方へ入っていく市道を改良するように考えている。現状のまま使うのではなく、給食配送車が通りやすいように、幅員何メートルとかいうところはまだであるが、183号線から進入していくということで考えている。あわせて、その種鶏場跡地へ調理場をつくるということになれば、下水や上水の整備も行っていく必要があるので、今後、詳細を詰めていくつもりである。

松村教育長 前回も意見をいただいたので、重なる部分は今回省略していただいた意見であったと思うが、今いただいたものとしては、地産地消の推進ということで、藤井委員から、一つの目標を立て、それに向けて取り組む具体的な数値を示していくことも考えてみてはどうかということがあった。また、深水員が従前から言われていたものであるが、ICT等を活用し、しっかりと他へ自慢ができる、そういう施設を作っていくというもの。また、様々な愛情を持って作られているのが学校給食であり、そういうところも大事にしていきたいという意見もあった。さらに、現在あるデリバリー給食を、中学生に温かいものを届けていけるように、そういったものを提供していくために、安全安心というところをしっかりと取り組んでいかなければいけないということ。また、地産地消にもかかわってくるが、食材について、それぞれの地域で特産があるので、三次にどんなものがあるかを逆に子供たちが知る機会となるようにする。それもオール三次という一つの考え方を持って取り組んでいくこともしっかり議論すべきだということや、食育の位置づけをしっかりと明確にしながら、重要視して、この中へ出してい

くべきではないかという意見をいただいた。さらに、食中毒の防止をしっかりとやっていくためにも、新しい施設の中で衛生管理に準拠できるものを持って、食の提供をしていくことが重要であり、そのためにも、区分けをしっかりとするというのを、これまで見学した施設を振り返りながら、お話いただいた。その他意見があれば聞かせていただきたい。

深水委員 前回も言ったので繰り返しになるが、この中に出てくる一番よかったワードは「給食の見える化」というキーワードだと思う。これは6ページに1箇所しか出てこないが、これをまず今後の計画の中ではしっかり前に打ち出していく。そのためにどういうことができるか。さきほど言ったように、市民にも、保護者にも、生産者にも見えるということにも繋がってくると思うので、ぜひこの「見える化」をしっかりと進めていただきたい。またこれを通して、安全とか衛生といったところも、相互にしっかりとモニターできることになる。見える化ということはものすごく大切だという気がする。もう一つ、今回この計画があがった中で、私の知り合いと何人か話をする中で出てきたのが、将来の財政負担の軽減というところで、多くの方が言われた。財政難ということは皆さんの共通の認識である。できるだけ負担がかからない方がいいし、子どもたちのためにと言いながら、結局子供たちに借金を残すという形にはしたくないという意見もあった。そのところは選択と集中で、何を選び、そしてどこに集中していくかということをしっかり考えていただければいいと思う。

小根森委員 先ほども言ったが、調理員や栄養教諭などそこで働く人たちの快適さや、やりがいといったところを大切にしたいと考えている。9ページの施設の運営のところ、新調理場の運営は、市が食材を調達し、献立の作成を行うこととし、場長を配置するとある。今までは校長先生が兼務していたが、専任の場長をそこに持ってこられるということはすごく大きいと思う。そして事務所職員もその施設の専任でそこに配置するというので、給食についてしっかり考えてもらうことができ、働く人の環境もしっかりと整えてもらえるのではないかと考えてそこに期待している。

松村教育長 深水委員からは、以前も言われていた「見える化」というキーワード、これをしっかりと意識しながらやっていくということ、保護者や市民にもわか



るように、安全や衛生の見える化を含めて言えば、それをモニタリングすることで、安全を確保、担保するということをお願いいただいた。財政負担のこともいろいろとお話しをされるなかで、子どもたちへの借金を残さないということも考えるべき視点ではないかということ。また、調理場を作ることで、専属の場長や事務職員を配置するということができるということで働く人の環境を良くしていくということをお願いいただいた。

深水委員 もう1つ。その後の段階として、実際の設計段階に入るときには、委員会になるのか、どういう形になるかわからないが、本当にしっかりとこういった思いを受け止められる専門家の方をメンバーに入れてもらい、しっかり作っていただきたいと考える。ちょっと話はそれるが、以前、三次市の新斎場の設置のときに委員をやらせてもらい、今の田幸の「悠久の森」ができるまでずっと見させてもらったが、その時の設置委員会の委員長が東京電機大学の先生で、ずっと火葬場の研究をしてこられた方であった。その先生が、最終的にはその設計の方向性を決められたが、ユニット式で、各ユニットに待合室がついているという他ではない形の設計案を出された。今でも日本中どこへ出しても恥ずかしくない、非常に特徴があり、また使いやすい斎場が出来上がったと思う。その時の東京電機大学の先生の思いを事務局側がしっかり受け止めて、非常に上手く結実した、しっかりしたものを造られたという気がする。そういった形で、今まで私達の思いや、保護者からのアンケート、パブリックコメントをしっかり受け止めた設計をしてもらいたい。また、それを受け止められる人選をしてもらいたいと思う。

小根森委員 今の深水委員の意見を受けて、いろいろあるが、三次市に現在ある調理場と連携をしっかりとって、リーダー的な調理場であってほしいと思う。一緒にいろんな新しい献立や行事食、地域の食材などを一緒に考え、リーダー的に三次市全体の給食を盛り上げてほしいと思う。作木、布野、君田、吉舎、甲奴の調理場と一緒によくなってほしい。他の調理場の手本となるように、また、他の調理場と協力をして、それぞれの地域のいい食材やいい行事食、地域食などを取り入れながら、子どもたちに提供してもらえればいいと思う。

松村教育長 深水委員からは、これまで携わられた施設等の設計において、専門家をしっかりと入れて、その中でよりよいものを目指した形になったことを踏まえ、今回の教育委員の意見や保護者アンケート、また市民の方のパブリックコメントの中身を受け止め、考えた上での設計ができるような形をとってほしい。どういう形になるかはわからないが、そこに専門的な方をしっかりと位置付けてほしいとの意見をいただいた。

小根森委員 この計画案には、味についての記載があるか。味というか、温かいものは温かいまま届けられるということについて、見学したところも、本当に熱いくらいの汁物を食べられたし、だしもかつおと昆布でとっておられた。そういった味をちゃんと保証するといったことをどこか入れていただくといいと思う。

松村教育長 そのほか意見はないか。それでは、委員の皆さんには前回は意見をいただき、また今回もさらに読み込んでいただく中での意見をいただいた。教育委員会会議で決めていただいた、調理場の建設に関わる方針をもとに作成したこの整備計画案を確定していくために、小中学校および保育所の保護者アンケート、市民からのパブリックコメント、委員の皆さんのご意見をとりまとめ、三次市学校給食整備計画策定庁内検討委員会へ提出し、あわせて検討していくように考えているが、同意いただけるか。

委員一同 ー同意ー

松村教育長 それでは、委員の皆さんの意見も含めて、今後の庁内検討委員会の方へ提出し、あわせて検討していただくように、事務局での取りまとめをお願いします。また気づき等があれば、その都度お知らせいただければと思う。これができるには、これから12月議会もあり、予算も当然関わってくることであるので、いただいたものをしっかりと検討していきたいと考えている。それでは、そのほか意見がなければ、協議1についてはよろしいか。

委員一同 ー了承ー

松村教育長 これをもって本日の会議を終了する。